

今日も「一丁あがり」



第56話

納得できるまで何度も作り直せ!! の巻



高垣達郎 (たかがき・たつろう)
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に(株)ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。(株)ロボストス代表取締役社長。

皆さん、こんにちは！ ふと空を見上げたら太陽の周りにできている輪っかを発見したロボストス高垣でございます。日暈という珍しい現象だったみたいです。さて、パソコンのデータを整理していたら懐かしい写真が出てきました。東京都墨田区の町工場に入り浸っていた11年ほど前、根岸産業(有)という盆栽用の如雨露を製造する町工場を訪ねました。その時に根岸修社長(当時)が教えてくれた如雨露の開発話は、いまでも忘れられません。盆栽の神様と称される方に試作品を見てもらっ

て、「この形がダメだ」「バランスが悪い」と課題をもらっては作り直して、何度も通ったそうです。50回ほど作り直して、その盆栽の神様から「できたね」と言われた時、磨き抜かれた機能とともにデザインまで完成されていたというのです。まさに機能美のお手本のような話ですね。その如雨露はロングセラーとなり、天皇陛下までもがご愛用される作品になっています。この話を聞いた時の感動は、いまでも色褪せないどころか輝きを増すばかり！ お客様の使い勝手を追究して心に響く仕事

をする、それが僕の理想とするモノづくりです。ということ、今月は現場の細かいニーズにサクサクッと応えてみましょう。

小さな工夫の積み重ね

まず一発目。千葉県が誇る変態農家・もとごや鈴木正昭さんから「真空包装機で米をパック化すると、角がだれる」というご相談。きれいに四角く成形できる治具を製作しましょう！ 3Dモデルを共有して、意見交換を重ねて、一丁あがり！
二発目は、カラオケ機器のレンタ

ル業も営まれているネギ農家の細野哲司さんから「管理機の中央部分の土をほぐせるように爪を作って欲しい」というご相談。細野さんにとっての理想の角度や幅寸法を模索して、一丁あがり！ これから圃場での動きを確認してきます。

三発目は、群馬県を代表する米麦農家・元気ファーム20さんから「ノルウェー製ロールベアラのローラーにこびりつく藁を除去するスクレーパーを作って欲しい」というご相談。ローラー径に合わせて刃を作り、作業しやすい角度をつけて、先端部を交換可能にして、一丁あがり！ 刃の耐久性や柄の材質など気になる点があるので、改良も考慮しつつ、まず使ってみてもらいましょう。「良い仕事をしたい」という気持ちがあつた(笑)。ということ、今月は三丁あがり〜♪



写真1：如雨露を手にする故・根岸修社長(当時)。根岸さんのモノづくりを僕は一生忘れないだろう

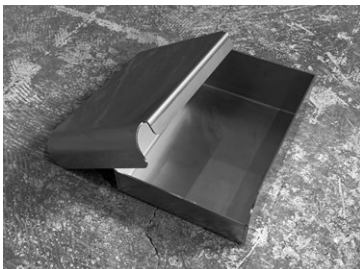


写真2：お米を四角くキレイに真空パック化するための治具。角の仕上がりにこだわる鈴木正昭さんの意識はさすが！



写真3：クボタ管理機用の爪。喜んでもらえるか!? さあ、現場へ!!



写真4：市販品(上)とロボストス製スクレーパー(下)。藁の落ち方の違いは歴然なはず！ひとまず様子を見てみよう